

事例番号:320242

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 1 日 骨盤位のため選択的帝王切開目的で入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 2 日

13:45 骨盤位のため帝王切開により児娩出、複殿位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 2 日

(2) 出生時体重:2500g 台

(3) 臍帯血ガス分析:pH 7.16、BE -8mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 7 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

出生当日 頭部超音波断層法で左側脳室やや大きい

生後 16 日 脳波検査で右後頭葉に棘波

2 歳 7 ヶ月 四肢麻痺

(7) 頭部画像所見:

生後 6 日 頭部 CT・MRI で左前頭葉にヘミゲリッソ沈着を伴った嚢胞状の血腫を認め、周囲の脳実質が萎縮し、また左大脳半球の全体的な萎縮

と左脳室拡大を認める

生後 7 ヶ月 頭部 MRI で大脳基底核や視床の異常は明らかではない、左前頭葉の嚢胞性病変は吸収過程にある陳旧性血腫と考えられる

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 3 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ:助産師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠経過中のどこかで生じた胎児の脳循環障害により中枢神経障害を生じた可能性があると考えられる。

(2) 脳循環障害の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

妊娠 39 週 1 日、骨盤位の診断による選択的帝王切開目的での入院後の管理(超音波断層法の実施、バイタルサイン測定、分娩監視装置装着)、および妊娠 39 週 2 日に帝王切開を実施したことは、いずれも一般的である。

3) 新生児経過

出生後の対応(新生児一過性多呼吸に対する持続気道陽圧換気、NICU へ入室)は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期に発症したと考えられる中枢神経系障害の事例を集積し、原因や発生機序について、研究の推進が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。